



自然観察

No.113
2015.3月

	目	次
・総会議案書案	2014年度事業報告	2
	2015年度事業計画(案)	4
・フォローアップ研修会報告	自然ガイドをしていること	5
〃	生きもの写真図鑑づくりと出会った生きもの	7
・新連載 嫌われ者～カメムシの世界	1	
	カメムシらしくないカメムシ～アメンボ	12
・2015年度総会・講演会・懇親会のお知らせ		14
・ウオッチングレポート		14
・会計からのお知らせ		16
・事務局だより・連絡		16



雪解け間近かの水田に飛来し落穂を食べ、時折ペアが鳴き交わし「求愛ディスプレイ」をするコハクチョウ（美唄市付近 '14.4月）

総会議案書案 2014 年度事業報告

1. 観察会実施状況中間報告について

(1) 一般観察会

2014 年度の観察会は、滝野の集いを除き、46 回開催が予定され、開催の中止の 3 回を除き、現在 (1/19) まで 40 回開催が無事終了しました。

このうち報告書未着および報告書不備の 6 回開催を除く 34 回開催についての集計をしましたので概要を報告します。

一般参加者数延べ 480 人、参加指導員数延べ 118 人

最終集計は 4 月の総会で報告及び会報 114 号に掲載します。各観察会の実施状況はその都度会報に掲載されました。

(2) 第 25 回滝野の自然に親しむ集い(会報 111 号に実施報告掲載)

今年は e 水プロジェクト 5 周年特別活動事業助成を受けての開催。

場 所：滝野自然学園

実施日：8 月 9 日 (土) ～10 日 (日)

参加料：3,900 円

参加人数：一般 5 家族 11 人 (リピータが 4 家族、大人 6 人、子供 4 人、幼児 1 名)・指導員 7 名

2. 指導員研修について

(1) 全道研修会(会報 111 号に実施報告掲載)

テーマ：「火山と原生林、丘の自然を歩く」

期 日：6 月 14 日(土)～15 日(日)の 1 泊 2 日

場 所：美瑛町(望岳台溶岩地帯・小松原原生林・北瑛古道)、旭川市(嵐山)

参加人数：34 人

※当協議会旭川チームの主管により開催

(2) 開催地研修会

(会報 112 号に実施報告掲載)

テーマ：「秋の北大苫小牧研究林」

期 日：10 月 5 日 (日)

場 所：北大苫小牧研究林

参加人数：14 人

※谷口勇五郎氏(苫小牧市)の主管により開催

(3) 北海道自然観察協議会指導員フォローアップ研修会と忘年会

期 日：11 月 30 日 (土) 13:15～16:00

場 所：かでの 2・7 1010 会議室

参加人数：14 人(新指導員 1 人)

・研 修：

1 蘭越の自然を撮って CD に
大表 章二氏

2 自己研さんの仕方～私の自然観察のやり方～

谷口 勇五郎氏

3 経験交流会「魅力的な自然観察を行うには」

・忘年会：「大庄水産」(読売北海道ビル 2 階) 参加者：11 人(新指導員 1 人)

(4) 救急救命講習会

日 時：2015 年 1 月 11 日(日)

10:00～16:00

会 場：札幌エルプラザ 4F 研修室 3

講 師：午前・応急措置 日本赤十字北海道支社、午後・AED・心肺蘇生法 (財)札幌市防災協会

参加人数：午前の部 10 人、午後の部 9 人

※冊子代(52 円)・受講料(1,500 円、今年度より札幌市民以外)個人負担

3. 会報発行について

会報発行：110 号 (6/15)、111 号 (9/15)、112 号 (11/15)、113 号 (15/3/15)。

編集部会：5/20、5/27、6/10、8/26、9/2、9/16、10/21、10/28、11/11、15/2/24、3/3、3/17 の計 12 回

4. 2014 年総会・役員改選・懇親会について

(1) 総会

期 日：4 月 13 日 (日) 13:00～14:30

会 場：札幌エルプラザ環境研修室

議 事：①2013 年度事業報告、②2013 年度会計決算報告・監査報告③2014 年度事業計画④2014 年度会計予算⑤会費の値上げについて(※1)⑥2014～2015 年度役員改選(※2)

(※1)会費の値上げについて

当協議会の会費について 2015 年度より現在の年額 1,500 円を 2,000 円とする。

ただし、同一世帯に複数の会員がいるときは、2 人目からは年額 1,500 円とする。

(※2)選考委員長より理事・監事名簿が提案され、協議の結果了承されました。

(2) 講演会 15:00~16:00

演 題：北海道医療大学の森～客土事業
によって荒れた森を復活し里山へ～
講 師：堀田 清 北海道医療大学薬学部
準教授

(3) 懇親会 17:00~19:00

場 所：山わさび北8条店
(札幌エルプラザ地下1階)
出席者：14人

5. 事務局関係について

(1) 組織の状況について

2015/3/31 現在で会員数 278 人

(2) 理事会

理 事 会 6/3、8/6、10/7、12/1、'15/2/3、
4/12(予)の計6回開催

(3) 北海道自然観察協議会のホームページ

観察会予定、観察会報告など随時更新
HPアドレス <http://www.noc-hokkaido.org/>
2014 年度 1 月までの観察会の実施は 46 件
でした。ホームページに掲載したのは 23 件
の丁度半分で、写真の掲載はわずか 2 件で
した。

大多数は文字による報告で、観察会終了後
に、報告と写真を数枚程度、観察部に必ずお
送りいただくようお願いいたします。

写真は、参加者が含まれる場合は、事前に承
認を得るようにお渡しいたします。

また、観察会のみだけでなく、会主催「総会・
講演会」、「道庁・植物園」観察会、「滝野の自
然に親しむ集い」、「研修会」などの報告と写
真は、会の全体を知っていただくようになら
んと思っておりますので、よろしくお願ひいた
します。

(4) 観察会の広報について

日本自然保護協会「自然」、北海道新聞、朝
日新聞、読売新聞、毎日新聞、地元新聞、オ
ントナ、自然ウォッチングセンター「ウォッ
チングガイド」、北海道環境生活部環境室環
境政策課、札幌市環境局環境都市推進部推進
課「えこぼろ」、北海道環境サポートセンタ
ー・メールニュース「環境★ナビ北海道」

(5) 他機関との連帯、交流

① 講師派遣

各種組織主催の講師の派遣実施

② 共催・後援

各種組織団体との共催・後援を実施。
後援：札幌市教育委員会
第 25 回滝野の自然に親しむ集い
第 14 回北大構内親子で楽しむ雪の観察会

【備品・分野別ガイド】

★観察会用品

観察会に使用したい方は保管先へ申し込
んでください。

備品	数量	保管先
実体顕微鏡 ニコンフエー ブルミニ	2 台	横山武彦(江別市) Tel 011-387-4960
タモ網 追込み網	30 本 2 本	同上
NOC 大型旗 (120×180)	1 枚	池田政明(札幌市) Tel 011-708-6313
NOC 小型旗 (35×43)	3 枚	須田節(札幌市) Tel 011-752-7217
ポール(折り たたみ式)	3 本	同上
トリプル バグビューアー	5 台	山形誠一(札幌市) Tel 011-551-5481

★分野別ガイド

得意分野での疑問や地域情報の問い合わせ
に回答して下さる方々です。

豊平川水系 水生昆虫、魚類

根岸 徹 011-891-0556
004-0054 札幌市厚別区厚別中央4条5丁目2-27

昆虫(甲虫)

堀 繁久 011-571-2146
005-0832 札幌市南区北の沢2丁目20-18

植物全般

与那覇 モト子 0133-74-7952
061-3211 石狩市花川北1条2丁目148

(分野別ガイドとしてご協力頂ける方は、事務
局へ連絡をお願いいたします。)

総会議案書案 2015年度事業計画(案)

1. 観察会の開催について

- (1)2015年度の観察会実施計画は別表「2015年度自然観察会予定表(指導員用)」のとおりです。(観察会日程のほか下見会も掲載しました。)

観察部山形誠一(札幌市中央区)へご連絡ください。できる限りバックアップしたいと思います。

- (2)各観察会連絡担当者の方は、観察会一般参加者名簿、指導員用名簿及び2015年度観察会予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。

- (3)観察会予定のHPへの掲載

観察会の予定及び実施状況は、会報及び北海道自然観察協議会のHPに掲載します。

<http://noc-hokkaido.org/>

- (4)観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は、観察部会計小川祐美(小樽市)へ送金ください。振り込み用紙を利用する場合は会計(小川)へ申し出てください。印字済みの用紙をお渡しします。口座番号:2770-34461(通常払込加入者負担の用紙)

加入者名:北海道自然観察協議会観察保険料

- (5)各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧できる仕組みを検討中です。また、観察会報告書には、観察会の様子が分かる写真も同封するなどご協力をお願いします。報告は観察部山形あてE-Mailで報告いただいても結構です。

- (6)観察会の下見を会員同士の交流と研修の場として活用してください。

- (7)観察部では備品の充実を図っていきたいと考えています。また、現在保管している備品に関しても有効な利用法を検討していきたいと考えています。

2. 指導員の研修について

- (1)全道研修会 日時・場所・テーマ未定
(2)開催地研修会 日時・場所・テーマ未定
(3)救急・救命講習会

責任ある観察指導員としての的確な判断と対応が取れるように救急・救命講習会を実施します。

日時:2016年1月中旬予定

場所:札幌エルプラザ(予)

講師:札幌防災協会(AED)、日本赤十字社北海道支部(応急手当)

会員以外からも受講者を募ります。事務局へお問い合わせください。

3. 会報発行について

114号(6/15)、115号(9/15)、116号(11/15)、117号(16/3/15)年4回発行予定

また、事務局ほか各部などの原稿の最終締め切りは発行日の45日前とします。

4. 第26回滝野の自然に親しむ集いについて

開催日:8月1日(土)~2日(日)

滝野の集い実行委員会(委員長・事務局・編集部・観察部・研修部の各1名選出)を組織して実施予定です。

開催場所は札幌市南区滝野自然学園・滝野すずらん公園

5. NACS-J自然観察指導員講習会について

NACS-J(日本自然保護協会)との共催事業。旭川地区の会員の皆さんの協力を得て開催の予定。

開催日程:6月13日(土)~14日(日)

会場:東川町キトウシ高原ホテル

参加申込受付:

4月20日(月)~5月10日(日)

6. 30周年記念事業について

開催日程:11月7日(土)

会場:札幌エルプラザ 3階ホール(予定)

記念講演:講師 寺沢 孝毅氏(写真家・天売島在住)(講演テーマ未定)

活動事例報告・経験交流、資料展示など、プログラムの詳細は検討中

7. 2015年度総会・講演会・懇親会について

・総会

日時:4月12日(日)13:00~14:30

(理事会11:00~12:00)

会場:札幌エルプラザ 2階 環境研修室 1・2

受付:12:30~

・講演会 (総会に引き続いて、同じ会場で開催)

日時:4月12日(日)15:00~16:30

場所:札幌エルプラザ 2階 環境研修室

1・2

演題：防風林と雪虫について

講師：山田 大邦氏(元札幌医科大学医学部
物理学講師)

・懇親会 17:00～19:00

会 場：山わさび北8条店(予)
札幌市エルプラザ 地下1階

会 費：3,500円

8. 保険について

共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり50円の保険料を協議会へ送って下さい、但し、1泊2日以降は該当しません。

【観察会事故緊急連絡】事務局へ連絡をお願いします。

保険会社(代理店)：ケイティエス 本間 茂 電話 011-873-2655 日曜、祝日休業 普通傷害保険(エース損害保険株式会社) 死亡保険：600万円 入院保険金額：5,000円(180日以内)日額 通院保険金額：2,500円(90日以内)日額

9. 事務局関係について

(1)理事会

6月、8月、10月、'16/1月、2月、4月の年6回開催予定

(2)各地域の活動の状況や課題などをお知らせいただき、会員がより活動しやすい体制を作り、活動を支援して行きたいと思っております。また、会員各位から寄せられた事業及び観察会の予定や実施状況は、会報及び当会のHPでお知らせします。

(3)個人情報保護法について

北海道自然観察協議会では、個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法の趣旨に基づき、入手した個人情報は、観察活動の目的以外には利用しません。また、保有する個人データは適正に取扱い、第三者に提供することはありません。

会員各位に置かれましても、個人情報の取り扱いには留意され、特に、会員名簿は外部に流失しないようにお願いします。

(4)講師派遣依頼について

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。

(5)観察会カードについて

20周年記念事業の一つとして作成した「観察会カード」の無料配布(送料発注者負担)を継続中です。希望の方は事務局へ連絡をお願いします。

フォローアップ研修会報告

本報告は、昨年(2014)の11月30日に開催した「2014年度北海道自然観察協議会フォローアップ研修会」で、谷口勇五郎理事、並びに大表章二元研修部長からそれぞれご報告された内容を基に、改めて書き直して頂いたものです。

自然ガイドをしていること

北海道自然観察協議会理事 谷口 勇五郎

生き甲斐を求めて～自然ガイドを始めたきっかけ～

自然ガイドを始めたきっかけは、定年退職後にすることがなかったことです。とくに趣味もないので、家に引きこもると心身の健康に悪く、家庭不和になると思いました。

生き甲斐を求めて、軽スポーツ(卓球・スポンジテニスなど)と現職(高校生物の教員)の仕事と多少関わりのある自然の観察でもしよう思いました。自然ガイドもしてみたかったのです。

自然ガイド(団体によりいろいろな呼称があるのでこれを使用)を目指して、地元・札幌・野

幌など各地の自然観察会(以下観察会)、探鳥会などに参加しました。民間のガイド関係の各種資格にも挑戦しました。北海道自然観察協議会・苫小牧の「自然観察グループまゆみの会」などの所属団体内でも大いに教えてもらいました。現在では、その他6~7の自然関係の団体に所属しています。

班ごとにリーダーを決めガイドする大切さ

人からの呼びかけを待つのではなく、何事も自分から声を出し、率直に希望を伝えていくことが大切だと思います。1~2年目は無我夢中に取り組み、間違いや失敗をしながら、3~4年目ぐらいから何とか1人ででもガイドができるようになりました。

普通の観察会では、草・木・鳥の3分野の取り扱いが相場だと思います。自然界ではそれらの生物が様々に結びついて生活しています。観察会では1つの班を1人でガイドすることは理想ですが、自然の分野は広いので、それぞれの得意分野を生かし1つの班を数人でガイドすることもできます。その場合、班ごとにリーダーを決め、そのリードの下に班全体にガイドすることが大切だと思います。勝手にばらばらでは班は分裂してしまいます。得意分野が異なる場合は良いとして、同じ場合はリーダーが振り分けて行うことになるでしょう。1分野だけでもかなりの量があり、不得意分野の克服が重要だと思います。3分野をそれなりに取り扱えるか否かが永遠の課題と思います。普段の精進が重要だと思います。



自然ガイドについてのやり方(解説の仕方、例の出し方、実物の示し方)・もてなし方・表情などは人により様々で個性があっても良いと思いますが、その内容はそれなりのものが重要です。珍しいものを追うのではなく、自分のコース内に普通に見られて主に目立つものがあると思います。

具体的には、当会の会報No.112号のP3のものなどは、自分のものにしておく必要があります。またイネ科やカヤツリグサ科が得意なので、

自然観察 113号(6)

それらをどんどん取り上げることは、普通の観察会のニーズに合わないと思います。もちろん質問された場合は別です。取り扱う生物は観察会と自己研修とでは必ずしも一致しないでしょう。自己研修では趣味のおもむくままに、さらに深めることは大事なことです。知っていることはつい話したくなるものですが、それがそのまま観察会の内容にはならないと思います。

今でも探鳥会・観察会・講演会に出かけ勉強していますが、自然ガイドを続ける限り自分には必要なことと思っています。

観察会での自然ガイドの心得

観察会では参加者あつての自然ガイドです。参加者のニーズに応えることが重要だと思います。ニーズは多様(参加者それぞれ持つ)なので、つい何でも取り扱うようになってしまいました。「気になることは遠慮なく、何でも聞いていいですよ」「分からないことは分からないと言いますから、心配なく」。自分の勉強のきっかけになります。

観察会での自然ガイドの心得としては、①班の全員が分かるように…参加者の方を向き、良く聞こえる声で見えるように、専門用語はなるべく使わない、1つのことで詳しくや長時間は避ける②参加者の声をよく聞き応えること③失礼な振る舞いをしないこと(言葉づかい、自慢話…)④安全第一で班内をきちんと掌握していること(ばらばら・隊列が長すぎはダメ…声が小さいとか、取り上げている内容がニーズに合わないバラける)⑤何か専門の学者ではなく、自然ガイドが専門なので「自分は鳥は専門外なので分からない」とは言えない。「その部分は不勉強で分かりません」となる。⑥仲間・参加者・その他の関係者と決して喧嘩をしないこと。しかし自分の考えははっきり伝えること。1人でも嫌な人がいると気にかかりストレスが増します。皆に気を配り、仲良くやること、自分のためにも大切だと思います。

生物の名前と同定の仕方

生物の名前を知ると、その生物に親しみが増し、生活の仕方を調べることもできます。

名前にこだわらない案内を、名前を知れば分ったような気持ちになり、それで終わりにになってしまうとも言われることがあります。名前にこだわらないとは、名前を知らなくても良いと誤解をしている人もいます。名前だけではもったいないので、その生物の性質や生活の仕方も

案内することも必要だと思います。自分の生物同定の仕方は、押し葉標本を作りません。保存にかさばり、花など分解すれば乾燥しているのですぐばらばらになります。写真は細かいところがはっきりしないので、あまり撮りません。実物の必要な部分を採り、ノートに分解などしてスケッチします。図鑑の生物名のところにノートのページ数を記入しておきます。実体顕微鏡(10倍)を使用しスケッチもします。とくに小さいイネ科・カヤツリグサ科の花や果実、コケ、昆虫などでは必要です。図鑑等で調べてもなかなか分からないことがあります。その時は良く知っている人に聞くことです。講演会や観察会などでは、気軽に質問をするようにしています。誰からでも教えてもらう覚悟が大切だと思います。集団で下見をすると、実力の程はすぐばれてしまいます。知らないことを恥じない。決して逃げない。知らないから勉強するのだと半分は開き直りの気持ちもいいかと思います。

地元の自然情報紙への投稿がきっかけで始めたエッセイ風自然ガイドの執筆

白老町で「白老の自然」という西洋紙1枚の裏表を用い、毎月発行の自然情報紙を発行している人がいます。2003年3月号に、錦大沼公園(苫小牧市)で初めて見たセッケイカワゲラについて、200文字ぐらいの文を投稿したところ掲載してもらいました。文を書くことは苦手で、現職時にも殆ど書いたことがありません。イラストまで添えて載せてもらったことは大変、嬉しかったのです。その後、毎月寄稿して11年目になります。北海道ボランティアレンジャー協議会の観察会は、野幌・札幌などで遠く、交通費もかかりそこでのガイドはできません。退会しようかと思ったこともありました。その会の

機関紙「エゾマツ」にも原稿(2005年以降)を寄稿することで活動に参加しています。

文章はエッセイ風自然ガイド(見聞・感想だけでなく、自然の解説も)なので、調べることもあり、ボケ防止になります。だんだん書くことに慣れてきました。「白老の自然」や「エゾマツ」などに載ったものがだんだん増えてきました。そのままではもったいないので冊子にしました。「虫と自然ガイド」(2010年、300円)、「自然の観察」(2012年、300円)。また自分のガイド用として7~8年前から草・木・鳥・獣・虫など種名別にA4用紙1枚に要点をまとめていました。訂正しながらだんだん枚数が増えてきました。観察会ごとにファイルから何十枚も取り出し、下調べをするのは面倒になってきたので、思い切って冊子にしました。自分の自然ガイド用虎の巻です。「自然ガイド」(2014年、600円)。観察会の時や原稿を書くときに利用しています。取り上げている項目は、500ぐらいあります。観察会・講演会・TV・書籍・ネット・新聞・雑誌など常に気にかけて、その冊子の訂正作業を続けております。

観察会でガイドをすることの効用

観察会でガイドをすることの効用は、①森林浴になりストレス解消・癒し・免疫力upなど②人との交流やガイドをすることにより元気をもらう③下見や下調べをすることによりボケ防止になるなどと思います。

観察会は楽しく、何かしらためになり(人の健康のことや風景を見る、自然の知識を深める)、また来たくなるものでありたいと思います。ボランティアの自然ガイドとして、観察会の実施や文を書くことにより、健康と生き甲斐を求めています。

生きもの写真図鑑づくり と出会った生きもの

北海道自然観察協議会元研修部長 大表 章二

はじめに

私は、2009年から居住している蘭越に生息する生きもの写真図鑑を作り始め、他地域のものも含め、昨年までに野鳥、昆虫、野草など十数種の図鑑が完成しました。図鑑は印刷して、学

校や図書館などに置いてもらい、町内外の人が閲覧できるようにしました。またCDにしたものを、寄贈したり、販売したりして普及しています。

今回報告の機会を得て、これらの写真図鑑づ

くりの動機や過程、完成後の活用等について述べることにしました。また制作中に会った生きものとの数多くの出会いの中から、いくつか選んで紹介したいと思います。拙い経験・体験ではありますが、皆様の参考になる点があれば幸いです。

なお今回の報告は、昨年 11 月のフォローアップ研修会での発表を下敷きにしています。

制作した生きもの写真図鑑について

A4 または B5 サイズで、1 ページに 1 種～4 種を掲載し、種の全体像が写っている写真のほか、生態写真、各部を拡大した写真なども加えました。本文は、形態の特徴や和名の由来、蘭越での分布の状況などにも触れました。表紙や使用上の注意、索引も市販の図鑑を参考にして作りました。製本は難しいので、カードリングを使用しました。



(野草の写真図鑑の表紙部分)



(野草写真図鑑の本文部分)

制作の動機

私は自然観察指導員になる前から、昆虫写真の撮影を趣味にしていたのですが、その後野鳥にも手を広げて、撮影を行ってきました。その結果、かなりの量の写真がたまってきたので、それを活用して地域に生息する生きものの写真つきのリストを作りたいと思いました。またそれを図鑑にすれば、地域の人たちにも役立ててもらえるのではないかと考えました。

野草の図鑑については、2009 年から町内名駒で行っていた植物相調査の結果をまとめる際に、写真つきでリストを作ろうと思い翌年から撮影を開始しました。その後余力があったので町内全域に範囲を広げ調査・撮影を行ってきました。植物相を明らかにすることで、地域の生物多様性保全に一定の役割を果たすことができるのではないかと考えたのです。

制作の過程

野草の図鑑を例にして述べます。

具体的な制作に取り掛かる前に、地域に生育する植物の調査・撮影を 2010 年から 3 年間行いました。町内各地をまんべんなく調査・撮影するように心がけました。その際、市街地、農地(水田・畑地)、湿地、山麓、山地、海岸など

の景観タイプを示す場所での調査・撮影を行いました。また季節による姿の違いを知るために季節毎に訪れるようにしました。さらに同一の植物種について、全体像、花、茎、葉等の各部分を撮影しました。その際できるだけ、同定の決め手になる部分も含むように心がけました。ただこれは実際にはかなり難しかったです。そのようにして撮影した植物は、できるだけ撮影直後に現地で実際の植物と見比べて同定しました。ただこれも理想通りにはなかなかいきませんでした。

こうして撮りためた写真の中から、良く撮れたものを選び、配列し、その後本文を書きました。本文の内容はすでに述べたのでここでは触れません。

以上のような過程を経て、まず町内でごく普通に見られる野草を70種選んで2012年12月に第1集「身近な野草」を制作しました。その後、2013年にも撮影を行い、4年間で撮りためた写真を使い、2013年の秋から2014年にかけて、「春の野草」「初夏の野草」「夏の野草」「秋の野草」を制作しました。

制作にあたっての苦労

何といっても確認・撮影した種の同定に苦労しました。特に野草と昆虫のコウチュウ目、ハエ目、ハチ目などについていうことができます。まず図鑑の写真で、該当しそうな種にいくつか当たりをつけます。次に説明を読み該当する種に絞ります。類似種がなかったり、少なかったりした場合は、比較的簡単に種名を決めることができます。こういうことも少なくはありませんが、とにかく同定しなければならない種が多いので、決められない場合が続出します。①図鑑の説明だけでは判断できないことがある②図鑑にすべての類似種が掲載されているとは限らない③専門用語がよく理解できていない④近年確認された外来種は図鑑に載っていないことが多い等々の理由が考えられます。できるだけ多くの図鑑を参照して、間違いを減らそうと心掛けましたが、多くの誤りが残っていると思います。

制作しての収穫、完成後の活用

私個人にとっては、種による形態の違いが頭に入り、同定能力が向上して、種名をたくさん覚えることができました。フィールドで実物と図鑑を見比べて理解するだけでは、やがて忘れてしまうことが多いのですが、図鑑を作るとい

う作業を経ることで頭に強く印象付けられて、忘れる割合が減ったと思われます。またどんな種が間違えやすいか、どんな種の特徴をよく頭に入れておかなければならないかなど、具体的な課題が明確になってきたように感じます。

蘭越地域に生息する野鳥、昆虫、植物相の特徴というべきものが、多少頭に入ったように思います。植物を例に挙げれば、港地区には海岸に特有な植物がかなり残っていること、ニセコ連峰には、多くの高山植物・亜高山植物がみられること、川上地区や新見地区には他地域に見られない野草がいくつかあること、スマレの仲間のいくつかは町内での生息地が限られていること、町内全体では外来種率が30%を超えていることなどがわかりました。

図鑑としての活用の点では、印刷したものを町民センター、図書館、各学校、高齢者施設、道の駅などに置いてもらい町民や旅行者が閲覧できるようにしています。またCDにしたものを寄贈・販売しています。閲覧された方や施設の方から、「地域の生きものが載っているので調べやすい」、「お年寄りが虫と遊んだ少年時代を懐かしがっている」、「廊下の掲示板に張り出して、児童の目に触れやすいようにしている」などの声が寄せられています。地域の生きものに対する関心を高めるのに、役立っていると感じています。

植物リストとしての意味もあると思っています。蘭越町における植物相を一定程度明らかにできました。全国にもあまりないのではないかと自負しています。今後役場や道などの地方行政団体に生物多様性保全のために活用してもらいたいと思っています。

改善すべき点

「制作にあたっての苦労」のところでも述べたように、おそらく種名の誤りをたくさん含んでいると考えられます。今後同様の図鑑を作る際には、もっと多くの図鑑にあたる、植物の形態についての専門用語をよく学び、理解する、専門家の助けを借りる、などを心がけたいと思います。

今後の図鑑作りについて

昆虫の図鑑を作って4年ほどがたち、図鑑に収録していない種の確認数が増えてきているので、第2集という形で、コウチュウ篇やアブ・ハチ篇を作ろうと思っています。また植物では、蘭越にみられる樹木の図鑑の制作を考えてい

ます。

制作中に会った生きもの

分野を問わず手当たり次第に撮影したせいか、いろいろな生きものの生活・生態をカメラに収めることができたと思っています。最後にそうした場面をいくつか選んで、写真とともに紹介します。

クマゲラの営巣

もう10年ほど前のことですが、5月の下旬から6月はじめの約1ヶ月間、町内豊国に毎日のように通って観察しました。車も余り通らない狭い道道に面した場所に営巣木がありました。誰にも邪魔されない一人だけの観察場所でした。最後にはヒナの巣立ちも目撃できました。



(クマゲラ 抱卵を交代する場面)

カワセミの狩り

カワセミがホバリングしながら獲物を狙ってダイビングする場面や、獲物の魚を嘴で突き刺してしまったシーンは目に焼き付いています。このカワセミは狩りがまだ下手な幼鳥だったようです。たぶん魚を呑み込むのに苦労したのではないかと思います。飛び去ってしまったので、その後の顛末はわかりません。



(カワセミ 獲物を突き刺した幼鳥)

タンチョウの飛来

近年道東にしか見られなかったタンチョウが道内各地で見られるようになってきましたが、2008年には蘭越にも1羽やってきました。田んぼや河川敷等で10日ほど滞在してくれたので、いろいろなシーンを撮影できました。



(タンチョウ 田んぼで舞う)

ミサゴの狩り

毎年夏から秋にかけて、尻別川と目名川の合流点付近で、狩りをするのをしばしば目撃しました。でも獲物を捕える決定的シーンは残念ながら撮らせてもらえませんでした。ですからホバリングの場面を見てください。



(ミサゴ 獲物を狙ってホバリング)

ムネアカオオアリの脱翅

5年前の6月、自宅外壁でムネアカオオアリの女王が腰をくねらせているのをみつけました。何をしているのだろうと近づいてみると、翅を落としているところでした。脚を上手に使っていました。それまで翅は自然に脱落すると思っていたので、ちょっとした驚きでした。



(ムネアカオオアリ 脱翅)

ショウジョウトンボ発見

5年前の7月31日、町内「名駒の水辺の楽校」で見つけました。見たことのない種だったので、図鑑で調べてみましたが、なかなかわかりません。偶産種として扱われていたためでした。これまで道内での記録は1957年の函館市湯の川における報告だけでしたが、2007年以降、道南各地で確認されています。現在蘭越が北限となっています。



(ショウジョウトンボ オス)

コエゾゼミの羽化

セミの羽化は時期や場所をあらかじめ狙いを定めておけば、難しいことではないと思いますが、その感動は脳裏に焼きついています。ぜひ子どもに何度でも体験させたいシーンです。トンボの羽化も同様です。



(コエゾゼミ 羽化)

セイヨウオオマルハナバチ発見

これは図鑑制作後の出来事ですが、昨年7月自宅のムラサキシキブの花に吸蜜に来ているところを見つけました。これまで後志では多くの町村で見つかっていましたが、蘭越では初めてのことです。



(セイヨウオオマルハナバチ ムラサキシキブに来る)

※図鑑を収録したCDをお分けします。

ご希望の方は、0136-57-5610

または s-om@hb.tp1.jp までご連絡ください。

頒価は400円です。宅配便利用の場合は別途送料がかかります。

新連載 嫌われ者～カメムシの世界 1

カメムシらしくないカメムシーアメンボ

小樽総合博物館 学芸員 山本 亜生

カメムシという昆虫にどんなイメージをお持ちでしょうか？ 臭い虫であること、秋口に屋内に侵入してきて迷惑なこと、また稲や野菜の害虫であること、とにかく良いイメージがこれほど思い浮かばない生物も他にないかもしれません。

しかし一口にカメムシと言っても、実にさまざまであることを忘れてほしくありません。カメムシの仲間は世界に約20万種、日本には1500種以上がありますが、その形態や生態は多様性に富み、観察対象として実に魅力的だと思います。

この連載では、「身近なカメムシの意外な姿」をテーマにいくつかの話題を提供いたします。奥深いカメムシの世界に興味を持っていただければ幸いです。

アメンボはカメムシ？

さて最初にご紹介したいのはアメンボという昆虫です。アメンボがカメムシの一種であることに驚かれる方もいるかもしれません。アメンボはカメムシの祖先に比較的近い、「原始カメムシ」と言えるグループだと考えられています。

アメンボを見つける機会がありましたら是非ルーペでその顔を拡大してみてください。大きく丸い目やいくつかの節に分かれた触角、そしてストローのように伸びた口の構造はカメムシの特徴をよく表しています(写真1)。またアメンボを鼻に近づけてみると、砂糖の焦げたような甘い臭いを感じることができます。アメンボがカメムシの一種である証拠に、「臭い」を発する能力を持っているのです。ちなみにアメンボの語源は「飴ん坊」で、飴のような臭いを出すことから来ています。



写真1 腹側から見たアメンボの頭部。前脚の間にストロー状の口(口吻)が見える。

水面を利用した暮らし

アメンボは水たまりや沼、湿原、川辺など水のある様々な環境で暮らしています。アメンボの最大の特徴は水面に「立つ」ことができることです。アメンボの脚先には微細な毛が密生しており水を弾くことが出来る構造になっています(写真2)。



写真2 アメンボの脚の先端。水をはじくための短い毛が密生し、水面の揺れなどを感じる長い感覚毛が数本ある。太い鎌状のものは爪で、水面を破らないように先端から少し離れてつく

水面には表面張力という力が働いており、小

さな昆虫はこの力に捕らえられると自分の力では動けなくなってしまいます。アメンボはこの自然の「網」にかかった獲物を専門に食べて生活しています。一步間違えれば自分が危険にさらされる厳しい環境ですが、それを巧みに利用してアメンボは生きているのです。

またアメンボは水面に広がる波紋を利用して獲物がいることを感じたり、仲間とコミュニケーションをとることがわかっています。アメンボの足先には水を弾くための毛とは別に感覚器の役割を持つ長い毛が生えています。これを使って水の繊細な動きを感じ取ることができます。

北海道のアメンボ

さてカメムシに意外とたくさんの種類があるように、アメンボの仲間にもたくさんの種類があります。北海道には 11 種のアメンボが分布しています。いずれもよく似た姿をしており見分けるのは易しくありませんが、生活する環境は種類によって異なります。

比較的普通に見られるアメンボは、アメンボ（ナミアメンボ）、ヒメアメンボ、コセアカアメンボ、エゾコセアカアメンボ、ヤスマツアメンボの 5 種です。ナミアメンボはこの中で一番大きく、長い脚のスマートな姿をしています。池や沼など開放的な場所を好み、公園の池など人工的な環境でもよく見かけます。

ヒメアメンボは小型のアメンボで、ナミアメンボと混生している場所ではまるで親子のように見えます（写真 3）。幅広い環境に適応した種で、道端の小さな水たまりから山奥の湿原にまで見られます。しかしあまり人工的な環境は好まないようです。



写真 3 ナミアメンボ（大）とヒメアメンボ（小）。同じ場所で混生することもある。

コセアカアメンボ、エゾコセアカアメンボ、ヤスマツアメンボの 3 種は互によく似ており、

特にコセアカアメンボとエゾコセアカアメンボは、標本を解剖しないと正確に識別することができません。これら 3 種は林道の水たまりや河川の水たまりに多く見られます。大きさはナミアメンボとヒメアメンボの中間で、脚が短くややずんぐりした体型をしています。

ババアメンボ、ハネナシアメンボ、キタヒメアメンボ、セアカアメンボ、エサキアメンボの 5 種は自然度の高い水辺にしかすみません。良い水環境が維持されていることの指標となる生物といえます。

ババアメンボはヨシなどの抽水植物の間、ハネナシアメンボはヒシなど浮葉植物が多い場所、セアカアメンボは湿原の池塘などに見られます。キタヒメアメンボは最近日本に分布していることがわかった種で、十勝三股や釧路湿原など限られた地域にわずかに生息します。エサキアメンボも最近北海道から確認された種で、苫小牧や千歳などの湿原から見つかっています。またババアメンボ、エサキアメンボは環境省レッドリストの準絶滅危惧に指定されている希少種です。

溪流のアメンボ～シマアメンボを探そう

アメンボはどれも似たような色と体型をしていますが、シマアメンボだけは全く違った



写真 4 シマアメンボ。一般的なアメンボとは体型も色彩もかなり異なっている。

姿をしています。その体型は丸く、美しい線状の模様があるのが特徴です（写真 4）。シマアメンボは溪流の流れの中に住んでいる流水性のアメンボで、たえず水の動きのある場所にすむため高い遊泳能力を持っています。

ところでアメンボの中には、海面で暮らすウミアメンボというグループがあります。

昆虫は陸上のあらゆる場所で繁栄している生物ですが、不思議なことに海上にはほとんど進出していません。ウミアメンボは極めて珍しい海にすむ昆虫の一つです。

残念ながらウミアメンボ類は北海道にはすんでいませんが、実はシマアメンボは、このウミアメンボと近い親戚関係にある昆虫です。

シマアメンボはアメンボの中では特に小型で、薄暗い流れの中を素早く泳ぎまわるので見

つけるのが大変です。しかしその軽やかな動きと美しい模様は見ていると飽きません。また山奥よりも里山の流れに生息地が見られます。是非皆さんのフィールドでも探してみてください。

しかし残念ながらシマアメンボがすむような美しい流れは確実に減ってきています。シマアメンボ自体はまだ絶滅の心配はされていませんが、見つけられる機会は段々少なくなってきました。シマアメンボのすむ環境がいつまでも残っていてほしいと願わずにはられません。

2015 年度総会・講演会・懇親会のお知らせ

《総会》日時：2015年4月12日（日）13：00～14：30

場所：札幌エルプラザ環境研修室1・2（札幌市中央区北8西3 Tel 011-728-1222）

協議：(1)2014年度事業報告(2)2014年度決算報告・監査報告(3)2015年度事業計画案(4)2015年度予算案(5)副会長選出(6)その他

《講演会》15：00～16：30（札幌エルプラザ環境研修室1・2）

演題：『冬の使者・白い妖精の生活史について学ぼう～防風林と雪虫～』

講師：元札幌医科大学医学部物理学講師 山田 大邦氏

一斉に現れる雪虫はどこから来るのでしょうか、ヤチダモにきた雪虫はその後、どうなるのでしょうか。雪虫の綿毛の美しさに惹かれて、幼虫を実験室に移して飼育。成虫へ成長していく時の綿毛の発生の様子、綿毛とはどのような構造をしているのか、それは何でできているのか・・・防風林に舞う雪虫を見続けてきた雪虫のふしぎなお話です。

《懇親会》17：00～19：00 場所：山わさび北8条店〔札幌エルプラザ 地下1階〕

会費 3,500円 ※参加希望者は、4月10日まで事務局池田にご連絡ください。

Tel/Fax 011-708-6313

Email ecology@cocoa.ocn.ne.jp

ウオッチングレポート



千歳市「秋の紋別岳」 2014/9/6

秋の花・樹木

晴れ。風もなく、遠くがかすむ程度で見晴らしが良い。

紅葉にはまだでしたが、ミソガワソウ、ミヤマセンキュウ、エゾニュウ、サラシナショウマ、

エゾノコンギク、エゾオヤマリンドウなどの草花が咲いていました。タラノキやクサギの花、ハンゴンソウやノリウツギの虫こぶ、カエデの仲間、ダケカンバ、ハナヒリノキなどの樹木の観察。ヒガシニホントカゲの幼体、マイマイカ

ブリやミカドフキバッタの産卵の様子などを見る。標高差 600m、片道 6 km でした。

(谷口 勇五郎)

苫小牧市「秋の錦大沼」 2014/10/12

今年の爽りは

今回のテーマ「紅葉はまだ」でした。

今年は例年に比べ、台風などの強風が少なかったこともあり、一段と紅葉が美しい。公園内をゆっくり散策しながらの紅葉・黄葉の仕組みやら、樹木個々の色彩の変化を心行くまで楽しんだ一日で、参加者の皆さん満足げであった。

錦大沼の対岸に展開する山々の紅葉を見て、あの赤は…、あの黄は…、あの緑は…、と言うように、樹木を当てたり、色の具合によってどのような樹木で構成されている森林かを考えるなど、普段と違う森林の見方に、一同新鮮さを覚えたようでした。一日晴れと言う天候にも恵まれた一日でもありました。

(佐々木 昌治)

北広島市「野幌原始林」 2014/10/26

特別天然記念物「野幌原始林」は野幌丘陵に位置し北広島駅から徒歩 20 分ほどの場所にあります。隣接して北広島レクリエーションの森があります。北海道にきて 5 年目、北国の様々な風景や自然の営みに新鮮な驚きの毎日ですが、いつも心惹かれるのは、生き物達の長い冬に備えた耐寒戦略の姿です。紅葉の時期はその圧倒的な色に目を奪われてしまいます。

しかし今回は、紅葉をほぼ終えたレクの森で、いつもより意識的に視線を下げて、高木の落ち

葉、幼木の紅葉、植物の耐寒戦略の姿、木の実・冬芽などをじっくり観察してもらいました。さらに「やってみよう！」題して、参加者に林床にある気になるものを拾ってもらい、後半はそれぞれの感想や考察と共に皆でお披露目会をしました。指導員としての未熟さゆえに知識の提供は不十分でしたが、自然に親しみながら参加者同士の対話が展開することを促し、他者の視点に触れることの楽しさも味わってもらえたと思います。

(塚田 真理子)

苫小牧市「ウトナイ湖」 2014/10/26

天候は曇りの予報があり心配しましたが少し風が強いが快晴に近い天候に恵まれ 20 名の参加者がありました。

野鳥はオオハクチョウ・ヒシクイ・キンクロハジロ・ウミウ・ヒドリガモ・オナガガモ・エナガ・ハシブトガラなどが多数観察することができ、参加者も満足の様子でした。林間では

コナラ・ヤチダモ・エゾノコリンゴ・ズミ・キハダ・ケヤマウコギ・カラコギカエデ・ツルウメモドキ・マユミ・チョウセンゴミシなどを観察できました。

参加者の「もうすこし時間があれば・・・」の声の中、観察会を終了しました。

(宮本 健市)

札幌市北区「雪氷観察会」 2015/1/10

気温 2.3℃の比較的暖かい午後 1 時、北海道大学クラーク会館前に集合し、中央ローン広場の雪原にて観察会を行った。天候が良く降雪の観察はできなかったが、積雪(深さ 73cm)の層

構造を観察し、温度や密度を測定するなど科学的に観察した。その後、測深棒を使って積雪分布を測定し、積雪のばらつきについて学んだ。

さらに、目隠しをしながら雪原歩行をしたり、

雪の中からミカンを探したりして、手や足で雪を体感した。最後に、金属の熱伝導を利用して氷を融かす「アイスモールド」という装置で、雪の形の氷塊を作る実験を行った。

科学的な視点から雪を観察する方法を学ぶとともに、身体を動かしながら雪を感覚で観察することができ、参加者は貴重な体験をしたようである。
(山田 高嗣)

会計からのお知らせ—当会の活動は皆様の会費で運営されています—

すでに会報などを通じてお知らせしていますが、財政難のため、明年度から会費を値上げさせていただきます。今年度までの会費納入がお済みでない方は、至急、会費の納入をお願いします。今回は、会費未納の方にのみ振り込み用紙を同封しました。また、その方には宛名シールに振り込み状況も記載しましたのでご覧ください。(2月末段階での納入状況です。以降に納入された方は、その限りではありませんのでご了承ください。)

- ・27年度から年会費を500円値上げし、個人会員は2,000円、家族会員は3,000円になります。
- ・27年度分の会費振り込み用紙は、次号(6月)で同封します。
- ・退会の申し出あるまでは会員です。26年度をもって退会される方は、26年度までの会費を納入の上、事務局または会計担当までご連絡下さい。

郵便振替口座 02710-1-8768

会費振込加入者名 北海道自然観察協議会会計 三澤 英一



★会報の中にもご案内していますが、4月12日(日)13:00~14:30まで札幌市エールプラザ環境研修室1・2で、2015年度総会を開催いたします。

総会后、講演会、懇親会もありますので、会員の皆様、是非ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。(い)

☆今月号は、前回の時と異なり原稿が多数集まりました。誠にありがとうございました。しかし紙面の関係で、会員の皆様方に書いていただいたフィールドニュース、参加者の声など幾つかの原稿を掲載することができませんでした。お詫び申し上げます。次回には是非、掲載したいと思っております。(む)

☆11月開催予定の30周年記念事業内容を検討中です。寺沢孝毅氏の講演に続く活動事例報告について、あの方の話を聞いてみたいなど他薦・自薦の会員もしくは非会員がいましたら事務局にご一報ください。

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768 振込加入者名北海道自然観察協議会

会計 三澤 英一 北広島市松葉町5丁目9-16

TEL 011-372-0745 E-mail qqyn8ppd@space.ocn.ne.jp

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5

TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観察部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14

TEL/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

退会・住所変更連絡は 事務局 池田 政明 札幌市北区麻生町4丁目9-16

TEL/Fax 011-708-6313 E-mail ecology@cocoa.ocn.ne.jp

事故発生等緊急時は ケイティエス 担当 本間 茂 TEL 011-873-2655

投稿や原稿は 編集部 村元 健治 札幌市手稲区星置2-8-7-30

TEL 011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2015年 3月15日/第113号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)

発行 北海道自然観察協議会

編集 北海道自然観察協議会編集部